

**放送日** 令和2年9月1日(火)  
**担当者** 市長 上野 正三

おはようございます。市長の上野正三です。

4月に始まった朝のスピーチも新型コロナウイルス感染症の影響で、一時中断しておりましたが、本日から再開いたします。

まず始めに、新型コロナウイルス感染症についてであります。本年2月28日に北海道知事が緊急事態宣言を出してから約半年が経過いたしました。その後国が緊急事態宣言を行い、5月に解除されました。しかし依然として予断を許さない状況が続いております。

この間職員の皆さんにはそれぞれの業務がある中、市民の皆様への特別定額給付金等の支給、医療、福祉関係機関、事業者等への支援、教育関係機関への対応、PCR検査センターの設置等様々な施策を検討し、実施してきました。皆様のご苦勞に心より感謝を申し上げます。

また、勤務時間外においても感染症防止対策として外出の自粛、「新北海道スタイル」の実践等長期にわたり不自由な生活を強いられストレスの多い日々を過ごされてきたことと思います。

皆様の強い精神力とご努力が市職員としていまだ一人の感染者も出していない状況を生んでおります。改めて皆様に感謝申し上げます。

さて、今日は免疫力アップの話をしていただきます。先日ラジオで免疫力をアップさせる方法として笑うことが一つの方法だといわれておりました。

詳しく話をすると時間が足りませんので知りたい方は市長室までお越しください。

皆さんは一日何回笑いますか？一日3回、朝・昼・晩  
3回笑ってコロナウイルスに打ち勝ちましょう。

「ワッハッハ」

**放送日** 令和2年9月2日（水）  
**担当者** 副市長 水口 真

おはようございます。副市長の水口真です。

職員の皆様には、市民に寄り添いながら感染症対策、生活支援、経済対策等に全力で取り組んでいただいていますことに深く感謝いたします。コロナ禍にあり「笑い」が免疫力を高めるお話が市長のスピーチにありました。あれほど豪快な笑いは私にはできませんが、適度な運動と平常心を保ち免疫力を上げたいと思います。広報9月1日号には、「新しい生活様式に食育を」という特集が健康推進課により掲載されています。免疫力を高める食材やメニュー例が紹介され、時期を得た掲載に感心・感謝いたします。

さて、今年度も折り返し時期が近づいています。コロナ疲れでしょうか、事務処理の誤りが見受けられます。私もこれまで多くの事務処理誤りを行いました。心に強く残るのが、平成12年に創設された介護保険制度の保険料担当になった頃です。保険料の年末年始時期の納期限設定を誤りました。税と料の取扱いの違いを調べずに税の経験から思い込みで設定してしまいました。また、誤ってすでに保険料を納めていただいている方に督促状を発付したことがあります。原因は、システムのプログラム上のエラーによるものでした。プログラムの基本は自治体共通だから大丈夫という、当事者意識のない対応が市長名で督促状を送る結果につながりました。1名の方への発付でしたが、その方が自動車販売会社のクレーム処理担当から取締役になった方で、謝り方から文章の書き方まで大変勉強させていただきました。いずれの誤りも相談した上司・先輩に親身に支えていただきました。誤りを次につながるよう対応することが大切だと考えます。

今年度、私の目標は、強い組織と職員育成の基礎を作ることとしています。まだ、一歩目が宙に浮いている状況です。後半は、市コンプライアンス方針の検討、社会の多様性に対応する人材育成の仕組みづくりに精力的に取り組めます。

放送日 令和2年9月3日(木)  
担当者 教育長 吉田 孝志

ご来庁いただいています市民の皆様、職員の皆さん、おはようございます。教育長の吉田孝志です。

さて、想定もしていなかったコロナ禍で、社会全体が大きく影響を受ける事態が続き、未だA f t e r コロナとは言えない状況にあります。今日は、学校における前年度末から新年度はじめにかけてのコロナ禍への対応状況を少し振り返ってみたいと思います。

まず始まりは、北海道教育委員会からの要請を受けて行った2月27日からの臨時休業、1か月以上の休みの後、4月6日からの10日余りの学校再開、そして、全国・全道及び北広島市内の感染状況等を鑑みるとともに、国の緊急事態宣言の延長決定や北海道教育委員会からの再要請を考慮し、4月16日から5月31日までの約1か月半に及ぶ臨時休業措置を採りました。

前例のない、3か月近くに及ぶ臨時休業期間中には、各学校において、児童生徒へ家庭学習課題を提供、電話等による健康確認や学習相談、個別の教育相談などに取り組んでももらいました。また、他市町村に先駆け、独自の取組として動画投稿サイトを活用した生活・学習支援情報の配信にも取り組んでももらいました。

その後、5月25日付けで国の緊急事態宣言が解除され、6月1日から学校を再開しました。その折には、子どもたちの学習習慣や生活リズムの緩やかな回復、給食の提供をはじめとする安定した学校機能の点検・確認等を考慮して、少人数・短時間での「分散登校」から開始し、「午前授業」等の週を経て、段階的に「通常日課」に戻れるよう配慮をしたところです。

なお、学校の再開に当たっては、文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づき、マスクの着用、手洗いの励行、消毒や換気の徹底など「新しい学校での生活様式」に取り組むとともに、児童生徒が近距離で行う合唱や接触のある運動など、感染症対策を講じてもなお感染リスクのある学習活動については、当面の間控えつつ、感染症予防に十分に留意した教育活動となるよう努めたところです。

また、長い休業で生じた指導時期のずれや遅れを「修正・保障」するために、学校・教職員の理解と懸命な尽力とを得て、年間指導計画の見直しや、夏休み期間の短縮、土曜授業の設定、教科指導の重点化や学校行事の精選などに取り組み、子どもたちの心のケアに留意しつつ、無事に2学期のスタートを切ったところでもあります。

これらの工夫や努力の積み上げが必要となり、これまで至極当然で、当たり前で過ぎてきた学校の日常とは、実は、危うさや脆さの上に成り立っていたと気付かされることとなりましたが、今回の臨時休業の長期化という経験は、学校が子どもたちの成長に必要な「居場所」であり、多様な「学びを保障する場所」であるということを、社会全体が改めて認識する機会になったと思います。また、この間を単に「奪われた時間」としてのみ捉えるのではなく、むしろ、自らを律し、自らやるべきことを見付け出し、自らが実践してみる機会となり、新たな日常を考えるために「与えられた時間」であると、積極的に捉え直すことにもつながったと考えています。

これからの学校教育は、A f t e r コロナを目指しつつも、当面は、W i t h コロナの考え方のもとで進めることとなりますが、北広島市全体にあっても、市民及び市職員の皆さんが心一つにして、今できること、今だからすべきことを着実に推し進め、コロナウイルスに強い地域社会を目指しましょう。特に、こまめな手洗いや咳エチケットの徹底を図るなど、「新北海道スタイル」の実践にはしっかりと取り組んでまいりましょう。

先日、市長が「笑顔」の大切さを話されていました。今日も、職場に「ワッハハ」の笑い声が響く1日となるよう、頑張りましょう。

**放送日** 令和2年9月4日（金）  
**担当者** 企画財政部長 川村 裕樹

おはようございます。企画財政部長の川村裕樹です。

新年度の業務スタートに向けて用意した内容ですが、業務を行う上で、私自身が心がけていること、またスタッフにも期待したいことを自らへの確認の意味でもお話させていただきます。

まず、挨拶です。基本中の基本で、理屈や理由はいりません。自分に関係する方へしか挨拶できない、しない様子が見受けられます。朝のあいさつのほかに、日中でもすれ違う際は会釈を交わすなど、いつか一緒に仕事をするかもしれない職員同士のコミュニケーションが一番だと思っています。

次に、情報共有です。今、自分の周りでは何が起こっていて誰がそれらに対応して、どのようにまとめられているのか。自分以外に情報を共有するという事は、信頼関係にもつながり、結果的に良い結果を生み出します。当然、自分が持っている情報も積極的に共有すべきだと思っています。

企画財政部では、朝、部全体の朝礼のあと、各課においてその日のスケジュールを確認し、業務にあたっていただくことを各課長を中心に毎日行われています。

出勤し、なんとなく業務に入り、なんとなく業務が終わるという繰り返しは、与えられる、または取りに行く情報も少なく、結果としてミスや良い結果につながらない状況となります。

最後に、気分で仕事をしないということです。私たちは、市民からの信頼を受けて日々業務にあたる行政のプロです。

プロの選手はその信頼、期待に応えるべく日々鍛錬し、成果を上げるべく活動します。気持ちのコントロール、仕事とプライベートの切り替えを上手に行うことで、成果を生み出します。我々にとってはその成果こそが市民生活の向上に寄与するものと思っています。

最後になりますが、現在、これまでに経験したことのない状況が目の前に突きつけられています。プロの行政マンとしてどう対応するのか、乗り越えていくのか、その原点にあるのは個々の能力もさることながら、これまで私が述べてきたことに尽きるんだろうと思っています。

私も、その気概を持って部長としての職責を果たしてまいります。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年9月7日（月）

担当者 総務部長 中屋 直

おはようございます。総務部長の中屋です。

今年度、20名の新人職員を迎え、そのうち15名が本庁に勤務しておりますが、今年は常時マスクをしているため、残念ながら顔と名前が一致できていません。マスクをはずせる日が、一日でも早く来ることを願うばかりです。

さて先日、夏休みの期間中、生まれ故郷である日高管内門別町（現在は合併で日高町）へ行ってきました。自宅から高速を使うとちょうど1時間で着く距離です。私が住んでいた当時は1万5千人の人口が今では1万1千人と約2/3に減少してしまいました。

市街地へ入る手前には昔ながらの踏切があり、一旦車を止めましたが、JR日高線も廃止とたった今、列車が通るはずもなく、一瞬、戸惑いながらも赤く錆びたレールの上を通り過ぎ、町中へと入って行きます。町役場や町立病院のある地域ですが、無人の駅舎、閑散とした駅前通り、シャッター商店街と化したメインストリートでは、休日、昼時にはありましたが、人通りも全くなく、数台の車が通りすぎるだけの大変寂しい光景でありました。年に一度はこうして故郷に帰ってくることにしていますが、そのたびに寂しくなっていくまちの様子に「このままではまちがなくなってしまうのでは」と悲しくさえ、感じてしまいます。

今、全国で地方創生として、それぞれのまちが工夫を凝らしながら、地域の活性化に取り組まれています。これもまた現実であります。今回も唯一のコンビニで缶コーヒーを買い、小さい頃よく遊んでいた浜辺を眺め、滞在わずか1時間余りの帰宅となりました。

たった1時間の距離ですが、こちらに戻ってくると、「北広島は恵まれているな」と常々感じます。北広島を外から見ると「活気がある」、「勢いがある」まちだなと感じてもらえるのではないのでしょうか。

北広島市は、これからさらに注目されるまち、期待されるまちになっていくものと思っています。我々職員はこの恵まれている環境に甘んじることなく、新たな北海道のシンボルの実現に向けて、道内外から持続可能なまちとして「住んでみたい」と思ってもらえるまちづくりを進めることが大切だと思っています。

そのために職員は何をすべきか。

いきなり大きなことからではなくても、まずは一人ひとりが普段の仕事や市役所内の環境、さらに自分の住んでいる地域での活動など、「ちょっとだけ関心、興味を深める」「ちょっとだけ注意を払う」「ちょっとだけの気遣い」

この一人ひとりの「ちょっとした意識や行動」の積み重ねが、約千人の市職員の力、市役所の組織力となり、これからのまちづくりを進めていくうえでも大きな原動力になっていくものと、私は信じています。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年9月8日（火）

担当者 防災危機管理担当部長 米川 鉄也

おはようございます。総務部防災危機管理担当部長の米川鉄也です。今のコロナ禍において、未だ終息が見えず、強いストレスや疲弊感が溜る中、職員の皆さんには、2月から長期にわたり、日々の体調管理はもちろんのこと、感染症拡大防止に庁内一丸となって取組んでいただき、本当にありがとうございます。

今日は、業務を通じて私が得たものを紹介します。

新型コロナの感染症対策においては、対策本部会議等を数十回実施しており、その中で、北海道の動きに合わせて急きょ休日に本部会議を招集したことがありました。

電話で部長全員に連絡をしたわけですが、皆二つ返事で了解してくれ、全員会議に出席してくれました。

危機管理に働き方改革はなく、仕事といえばそれまでですが、その時の全部長への「ありがとう」の気持ちは今でも忘れることはありません。人が動くときの原動力は感動・感激・感謝だそうです。自分が逆の立場になった時には、恩返しを込めて働く決めてしています。

これから本格的な台風のシーズンを迎え、危機管理担当としての思いをお伝えします。

我々地方自治体は、日常の市民サービスに重きを置く行政システムとなっており、その中でどちらかというと危機管理は非日常的と見られがちです。突然の危機・変化に対応し、市民の皆さんの命と財産を守るには、庁内一丸となった職員の知恵と行動力が不可欠です。

「体の距離は離れていても心の距離は密でいよう」

これが、前段の庁内一丸という表現の本質で、災害時での強い組織力の源であるとともに、2023年B Pの気運高揚にも繋がってくるものと信じています。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月9日（水）  
**担当者** 市民環境部長 高橋 直樹

おはようございます。市民環境部長の高橋です。

令和2年度も早いもので半年近くが経過し、残り7か月となりました。特に今年は、新型コロナウイルスの影響で予定していた会議やイベント等が延期や中止となり、各種事業などにおいて、その後の対応に苦慮されているものと思われます。また、今年は、次期総合計画を受けて、各種の個別計画を改定する時期にあたり、例年よりも多い回数の審議会を開催する予定でしたが、コロナの影響により会議そのものが開催できず延期となっていたため、先月あたりからやっと会議が開催できるようになったものの、所管する審議会は7つほどあるため、私自身は週替わりで毎週のように各種審議会に出席している状況です。限られた時間の中で、各種計画の見直しを行うこととなりますが、学識経験者や市民の皆さんの意見を十分に伺い、より良い計画となるようすすめていきたいと思っています。

さて、話は変わりますが、今年のスピーチは4月時点では、業務に関連して皆さんに直接影響がある内容を話そうと「プラスチック製買物袋いわゆるレジ袋の有料化」と「車の運転中にスマホ等を使うながら運転の罰則強化」について準備していましたが、レジ袋は7月から有料化されているなど完全に時期を逸しましたので、別の話をしたいと思います。

最近、テレビなどを見ていて、気になっている発言があります。それは、サッカー選手などのプロスポーツ選手が試合後のインタビューなどで「次の試合に向けて万全の準備を行い、（または、最善の準備を尽くして）次に挑みたい」という発言です。これは、結果を求められるプロの世界において、最高の結果を残すためには、もちろん試合当日にベストパフォーマンスを発揮することが重要でそのためにも、事前の準備段階から最高の準備をすることが必要であることを言っているのだと理解しています。

このことは、何もプロスポーツに限ったものでなく、普段の生活や仕事でも同じことが言えるのではないのでしょうか。例えば、普段の生活で料理をする場合には、仕込みや料理の手順を万全に準備しておけばおいしい料理ができるでしょうし、仕事であれば、会議等を開催する場合には、事前に準備すべき物品や当日の進行を万全に準備しておけばスムーズに会議等が進むのではないかと思います。

皆さんには、仕事を進める上で、前年度や過去の資料を見て、準備することが多いと思いますが、ぜひその際には、新たな視点や一工夫を加えることを考えてみてください。そのことが最善の準備につながるのではないかと思います。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月10日(木)  
**担当者** 保健福祉部長 三上 勤也

おはようございます。保健福祉部長の三上勤也です。

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で、本市を含む複数の市町村に甚大な被害をもたらしたことは、皆さんの記憶にも比較的新しい出来事だと思いますが、私が地震発生から3日目に大曲地区に設置された避難所の運営に従事した際、夜遅くになってから、新たな避難者が続々と訪れたことを鮮明に記憶しています。

避難されてきた方がおっしゃっていたのは、厚真町に派遣されている自衛隊員から、この後に再び大きな地震が発生するとの情報がSNSで拡散されていて、不安になったので、念のため避難してきたという理由でした。

情報の発信源は定かではありませんが、大きな地震は発生しなかったため、その情報によって、不安にさせられた方がたくさんいらしたことになります。

現在、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスに関連し、類似する現象が起きていると報道されています。

日本赤十字社のホームページでは、このウイルスには3つの感染があると指摘し、警鐘を鳴らしています。1つ目は病気そのもの、2つ目は不安と恐れ、3つ目は嫌悪・偏見・差別です。このウイルスは目に見えないし、わからないことが多いため、不安と恐れを感じ、特定の人や職業などに対し、「危険」のレッテルを貼る心理によって、差別や偏見が生じていると言われていています。病気が不安を呼び、不安が差別を生み、そして、差別が怖くて不調を言い出せなくなり、病気が拡散するという、負のスパイラルに陥ることになります。

SNS上で簡単に情報が拡散される時代ですので、正しいことだけではなく、間違った情報が広がっていることも少なくありません。皆さんにおかれましても、誰もが感染する可能性を認識していただき、被害に遭われた方々への誹謗中傷などに慎んでいただくようお願いします。そして、この事態に対応しているすべての人々に労いと敬意を表し、正しい確かな情報に耳を傾け、差別的な言動に同調せず、冷静な行動を実践し、負のスパイラルを断ち切るようにしましょう。

本市におきましては、今後の感染拡大に備え、9月1日から、北海道の委託を受け、北広島医師会との連携により、検体の採取に特化したPCR検査センターを開設したところであります。感染のリスクの最前線でご尽力いただく医療関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。



**放送日** 令和2年9月11日（金）  
**担当者** 子育て支援部長 広田 律

おはようございます。子育て支援部長の広田です。

今年4月の異動当初は、このたびのコロナ渦で、保育園や学童クラブの対応にてんやわんやの時期でした。世間では学校の臨時休校や在宅ワークなど、感染症拡大対策としてできるだけ人と接しない対応が進められる一方で、学童クラブや保育園は、通常通りの開所開園をして保育を実施していました。同時に本庁の職員もマスクや消毒液の確保をはじめ様々な対応に追われ、常に密の状態でも職務にあたっていました。子どもたちも含め職員も感染することなく今に至ったことは、日々コロナ対策に奮闘してくれた職員のおかげと感謝をしているところです。さて、先日ある悩み事で眠れていないと友人に話したところ、「下手な考え休むに似たり」と一笑に付され、「さあ明日もニコニコ元気に過ごしましょう！」とメッセージが届きました。悩み事の内容も伝えていないなかでの言葉でしたが、その一言で随分肩の力が抜けました。ことわざの意味合いはネガティブなものですが、笑って元気に過ごしましょう！の一言が大きな励みになったように思います。同じ時期に、市長のスピーチでも笑うことが免疫力を高めるというお話もあり、笑う話題が続きました。最近、保育園や学童クラブなど子どもがいる施設を訪問する機会が増えましたが、いつも子供たちの笑いがたくさんあります。コロナウイルスに感染することなく元気で過ごせているのも笑いのおかげかもしれません。そして、私たちの職場には、ベテランや新人、中堅と年齢も経験も様々な職員がいます。主義主張も異なり、すれ違うこともたくさんありますが、少しの笑顔でコミュニケーションもとれ、前に進めることもありますよね。自戒の念もこめて。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月14日（月）  
**担当者** 建設部長 平川 一省

おはようございます。建設部長の平川です。

これから、遊水地についてお話しさせていただきます。

まず初めに、江別市、千歳市、恵庭市、長沼町、南幌町と本市の4市2町に跨る千歳川流域は、広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川の高い水位の影響を石狩川の合流地点より千歳市の市街地の手前まで約40kmと長い区間で長時間影響を受けることから、堤防決壊の危険性が高く、さらに、川の水位の上昇により雨水排水が河川へ排水出来なくなるなど、内水による水害の起きやすい特性を有しています。

本市は石狩川より、上流に15kmから19kmに位置し、昭和56年の災害では南の里地区の島松川の堤防が決壊して大きな浸水被害が発生しました。この時の降雨を安全に流すことを目標に千歳川河川整備計画が策定されています。

このたび、札幌開発建設部が千歳川流域の治水対策の一つとして整備を進めて来た、千歳川遊水地群について令和2年4月から新たに5箇所が供用開始され、6箇所、全ての遊水地が供用を開始することになり、千歳川流域における治水安全度が格段に上がりました。

また、遊水地は千歳川河川整備計画の中で、河川の堤防整備や河道掘削とともに位置付けされ、6ヶ所の遊水地で洪水調節容量が約5千万 $m^3$ であり、札幌ドーム約32杯分を溜めることが出来るようになりました。

しかし近年、全国各地でこれまで観測されたことのない記録的な豪雨による洪水被害が頻発しており、被害の低減には防災に関する情報を適切に活用するため、「知らせる努力と知る努力」が重要と考えられています。

また、東の里遊水地は治水機能の他に利活用計画が平成30年に策定され、面積はボールパークの4倍の約150ha、堤防の外周は約5kmあり、この中にイベントの開催や運動広場、採草地や雪堆積場などの利活用が計画されています。なお、今年度より共栄の雪堆積場を遊水地内へ移し運用を開始する予定であり、今後、中長期的に更なる利活用を進めてまいります。運動不足の職員皆様は、是非、1週5kmの外周走破など、大きな遊水地を体感していただければと思います。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月15日（火）  
**担当者** 経済部長 砂金 和英

おはようございます。経済部長の砂金和英です。

令和2年度の経済部では、昨年度2月から続く新型コロナウイルス感染症について、経済対策に取り組んでいます。今日は、その業務を進める中で感じていることをお話しさせていただきたいと思います。

経済部では、企業や個人事業者、消費者の皆さんに経済対策を進める時、どのような対策でも、広報紙やホームページ、時には自治会・町内会への回覧、新聞折り込みのチラシやプレスリリースによってその内容をお知らせしています。ところが、窓口や電話で、お知らせしたことを知らなかった、載ってたの？知り合いから聞いたから市に連絡をしたなどと話されている方が意外に多いと感じています。広報紙は原則、全戸配布ですし、ホームページもスマートフォンが普及している現状では、多くの皆さんと市の情報が共有できるものと思っておりましたが、現実には皆さん忙しく、目を通したという程度なのではないでしょうか。最近、気になっていることです。TVドラマの視聴率を例に挙げることが妥当かどうかは別としても、第1位の視聴率は25%程度ですが、この番組のセリフにある「倍返しだ」と言うと大抵の方は「にこり」とされ「私、失敗しないので」こちらも同様で、その言葉によって詳しいストーリーを知らなくても、なんとなく大まかな理解ができてしまうところだと思います。私たちが市民の皆さんに知っていただきたい情報を、どのように伝え、どう興味を持って知っていただけるか、必要なことを端的に正しく伝えることが出来るか、これからの情報発信をどう進めていくのか、今更ですか？と嘲笑されるかもしれませんが、改めて考える機会を得ているものと感じているところです。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月16日（水）  
**担当者** 水道部長 藤縄 憲通

おはようございます。水道部長の藤縄です。

今日は、これからの時代に市役所職員が求められる能力について、私なりの考えをお話ししたいと思います。

まず、世の中でこの10年間で劇的に変化したことの一つは、スマホの普及であることは間違いのないと思います。これにより一気に情報の規模が拡大し、ビッグデータと言われる大量データを活用する時代となりました。昔、公務員に求められた能力は、この情報を処理する能力、つまり早く正確に事務処理する力である「情報処理能力」が求められていました。しかし、今や新型コロナ対策や毎年のように発生する自然災害への対応など、正解や前例のない業務が増えてきています。このような、前例の無い業務に対処するには、単なる「情報処理能力」ではなく「情報編集能力」が求められるようになってきていると感じます。

これまでもビッグデータを活用した情報処理型の業務は、急速にAIやRPAに置き換わっていくことと言われていましたが、今回のコロナ禍の影響により、密集を避けつつ業務効率を上げ、企業の働き方改革が進められることでこの流れは加速されていくと思われまます。

したがって我々がこれから身に着けなければならない能力は、専門的な知識や技能だけでなく、ビッグデータなどの情報を基に「新たに考え出す力」であり、「未来を予測し、未来を創る力」です。そのための「情報編集能力」は、本を読むことにより自らの創造力を高め、さらに価値観の違う人と議論することにより磨いていけると言われています。今はコロナ感染防止のため、家にいる時間も多いと思います。まずは、気になる本を一冊手に取るところから始めてはいかがでしょうか。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月17日(木)  
**担当者** 会計室長 櫻井 洋史

おはようございます。会計室長の櫻井です。

私がかつて配属され、今は存在しない部署を紹介させていただきます。平成元年から当時の広島町では、町名・町界整備事業を行っていました。町の名前と境界を整備する事業です。本格的に実施していった、都市計画課に町名整備係が設置された年に異動となりました。

当時北広島団地以外は、字名と地番で住所が表示されていました。広島町役場の住所も「札幌郡広島町字広島 63 番地」でした。市制施行を目指している町で字名というイメージの問題もありましたが、地番が飛んでいることによる住所のわかりづらさが何よりの問題でした。特に大曲地区は、ある程度地域に精通している我々役場職員でさえ、地番を言われてもそこがどのあたりにあるか即答できる者が数少ない状況でした。

町名の変更までには、地区の皆さんに事業の説明を行い、全世帯対象のアンケートを実施し、審議会でも町名案を決定、議会の議決をいただいた後、北海道に届出を行うとともに、各種の住所変更手続きについて説明会を行うといった流れで進んでいきました。

住所がわかりづらい現状は住民の皆さんも実感しており、事業の進行は比較的にスムーズでしたが、町名を決める段階では困難も多々ありました。現在の大曲柏葉のように、町の区域全体が一つの通称や町内会名であったところはほぼ問題なく決定したのですが、複数の民間造成団地や町内会の区域を一つの名称になると簡単にはいかないこともありました。

地域住民の皆さんと繰り返し協議を行い、一つの物事を決定していく業務を経験するととても良い機会をいただいたと今では考えています。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月18日（金）  
**担当者** 議会事務局長 藤木 幹久

おはようございます。議会事務局長の藤木幹久です。

平成28年から始まった「朝のスピーチ」ですが、これまでの4回のスピーチでは、自分の思いなど、身近なことを取り上げさせていただきました。

「挨拶」について自ら発信することや、「朝のスピーチ」での結びの言葉の「気持ちの良い挨拶と、親切な市民対応は、周りに笑顔をもたらす。」という大切にしたい心構えについて。また、組織の「レベルアップ」につながる職員一人一人の態度や言動など「人の力」が大切であること。そして多くの失敗や学びを繰り返しながら、周りのサポートに支えられて成長してきたこと。など心にとどめてきたことです。今回も身近な思いについて、少し触れたいと思います。

私ごとですが、自粛生活の中、プロ野球のテレビ観戦を専用チャンネルで、ほぼ毎試合楽しんでおりますが、プロ野球以外で、以前から動向が気になっている、好きなスポーツ選手がいます。プロサッカーの「三浦和良」選手です。今年で53歳になってもなお、第一線の現役選手として活躍を続け、今年はサッカー最高峰の舞台、J1での活躍のチャンスが訪れています。先日はカップ戦に出場し、またリーグ戦ではベンチ入り、今後はリーグ戦の出場、そして得点が期待されています。

彼は、サッカー界の功労者でもあり、特に若手にとって手本とされているのは、強烈で、ストイックなプロ意識にあると言われていました。

朝一番にグラウンドに現れ、練習では選手の先頭に立ち、年齢を重ねても、若手選手と一緒に手を抜かず、徹底した体調管理を行いやり遂げています。彼はプロ選手のお手本となり、多くのスポーツ選手から賛辞が贈られています。そのような彼は、多くの人々に感銘を与える、たくさんのメッセージを残していますが、その中で、気にとめている一つがあります。

「学ばない者は人のせいにする。 学びつつある者は自分のせいにする。 学ぶということを知っている者は誰のせいにもしない。 僕は学び続ける人間でいたい。」という「学び」についての言葉です。彼は常に良くなろうと考え、悩み、多くの人からプラスになることを学び取るため、立ち止まらずに行動し続ける。このことが、とても大切であるということ、教えてくれているのだと思っています。

私も、ひと区切りの年齢になりました。改めてこの「学び」の精神を見習い、その原点について見つめ直しながら、これからも「学び」続けていきたいと、思っています。そして、三浦選手の日々の努力がゴールにつながることを心待ちにしています。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月23日（水）  
**担当者** 監査事務局長 川合 隆典

おはようございます。監査委員事務局長の川合隆典です。

監査委員事務局は、独立した執行機関として第三者の立場で監査や検査などを実施しています。

いよいよ11月から来年2月にかけて、令和2年度の定例監査が行われます。職員の皆様方におかれましては、監査調書作成及び監査当日でのご協力お願いいたします。

さて、私たちの職場は、一世代以上の年齢差の職員が業務を行っているわけですが、思わぬところに認識のギャップがありスムーズな業務を困難にしているようです。これまでの監査指摘事項を見ても、公文書などの修正テープなどでの訂正、印鑑の押印もれ。補助金等交付事務における、決算書や帳票類と預金通帳残高とのチェックの未実施。契約事務において、マニュアルを確認せずに前年度書類の使い回しや、契約書の標準様式を訂正することなくそのまま使用するなどの事例がありました。

文書管理や会計処理において、管理職が当然と思っていることでも、若手職員がそう思っているとは限りません。ベテラン職員と若手職員では、育ってきた環境が違います。仕事の進め方、理解度も「当たり前が違う」と言ってもいいかもしれません。

本市では、総合計画を基本に様々な施策を実施しており、この過程で重要になるのが、内部意思決定である決裁であり会計事務であります。ここでの事務の誤りは、施策の効果だけでなく市全体の信頼を失わせることにもなります。

毎日の職場において、コミュニケーションを図ることはもちろん、管理職においては、仕事の全体像を把握し、適切な事務が行われるよう指導願います。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月24日(木)  
**担当者** 教育部長 千葉 直樹

おはようございます。教育部長の千葉直樹です。

私はスポーツが好きなのでテレビやゴルフ場で女子ゴルフを観戦することがあります。女子ゴルフは最近大変人気のスポーツで、本市においても、明治カップが毎年開催されていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり残念に思います。ゴルフはショットの応戦でスコアを争いますが、いかに精神的に安定して競うことができるかが勝利に繋がります。ゴルフは自分との戦いとも言いますが、ペアリングで一緒に回る人の影響を受けてしまいます。調子が悪いときに一緒に回っている人が良いショットを打つと影響を受け、自分のショットができず心の小さな揺れが、ショットに大きく現れます。また最近、毎年賞金女王が変わったり、前年の賞金女王の予選落ちもよく見られます。シーズンオフに生活リズムの変化から肉体的なバランスが変わったりすることも原因の1つですが、いちばん大きいのは賞金女王を取ったことによるプレッシャーが与える影響が大きいと感じます。精神的な乱れやプレッシャーの中でのショットを見るのがゴルフの醍醐味や面白さで、高い人気になっている理由だと思います。トーナメントでは、一人きりでラウンドすることがまれにありますが、そのときは、良いスコアが出る傾向のようです。人の行動は常に精神状態が影響します。みなさんも日頃から適度なプレッシャーを感じながら仕事をしていると思いますが、精神状態を安定させるため自分なりの工夫をしながら、自分ができる最高のパフォーマンスを出せるよう色々試してみたいはいかがでしょうか。今日も自分の能力を最大限発揮するための準備はできていますか?始業前のウォーミングアップは終わりましたか?

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。



**放送日** 令和2年9月25日（金）  
**担当者** 教育部理事 津谷 昌樹

おはようございます。教育部理事の津谷です。

今、毎週日曜日、夜9時からのドラマ「半澤直樹」が人気です。職員の皆さんの中にもご覧になっている方が多いかもしれません。私も毎週楽しみにしている一人です。このドラマでは、代表的な「倍返し」をはじめ、放送のたびに数々の名台詞や名シーンが話題になります。その中で「感謝と恩返し」というキーワードが話題にのぼった回がありました。主人公が部下に「仕事で大事なのは感謝と恩返しだ」と説く場面です。この放送を見ていて、思い出したことがありました。

私は、教育委員会にお世話になる前、30年以上、中学校の教員として多くの中学生と関わってきました。決して良いことやうまくいくことばかりではありませんでしたが、その日々は私のかげがえのない財産です。子どもたちから学んだことや教えられたこともたくさんあります。中学生の真っすぐで純粋な考え方や、みずみずしい感性に触れ、はっとさせられることも度々ありました。

今から3、4年程前になりますが、ある中学校3年生の作文の一節に目がとまりました。そこには、「人が誰かに尽くすことができるのは、その誰かへの感謝の気持ちがあるからだと思う。社会はその、尽くしてもらったことに対して感謝し、恩返ししようとする人間の本能で成り立っていると思う」と書かれていました。

この生徒は、「感謝」と「恩返し」は人間の本能であり、それが連鎖することで社会は成り立っている、と言っています。中学生ながら鋭い感性や表現力に感心したことを覚えています。

実際には、世の中は多様で、複雑で、混とんとしているところも多々あるものです。また、現在は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、いまだ不安や閉塞感も漂います。こうした時だからこそ、なおさら、「感謝と恩返し」のような、相手意識に立つ考え方や行動を大切にしなければいけないと、自分自身、肝に銘じているところです。

現在、新型コロナウイルスの影響が長期化しています。コロナウイルスに強い地域社会を目指し、こまめな手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」の実践にご協力をお願いいたします。

**放送日** 令和2年9月28日（月）  
**担当者** 消防長 佐々木 伸

おはようございます。消防長の佐々木です。

私は、道内では珍しい市役所から配属されたノンプロパーの消防長ですが、肉食体育会系人間なので規律が厳しく挨拶も元気良く、食欲旺盛な職員達と毎日部活動のように過ごさせていただいております。

さて、消防における新型コロナウイルス関連の対応としては、市の対策本部会議と同時に警防本部会議を立ち上げ、現在は新北海道スタイルを実践しながら縮小していた業務を徐々に拡大している状況です。また、現場活動では感染防止対策を施しながら、いつ自分が感染してしまうかもしれない状況の中、疑似患者搬送から帰署した車両や庁舎の除染作業など職員一丸となって取り組んでいます。水際最前線で活動するプロ意識の高さに日々頭が下がる思いです。

ボールパーク関係では、スタジアム開業後の大規模災害などを想定した訓練の構築や指揮隊・救急隊の増隊、資機材の増強などの準備を急ピッチで進めているところです。

また、市民の高齢化率の上昇に伴う救急需要の拡大にコロナ禍も相まって、救急現場では高度で専門的な処置への期待が高まっています。さらには、令和7年度に開始予定の札幌圏消防通信指令業務の共同運用による広域連携の準備もありと、消防は今まさに創設期以来最大の重要局面を向かえていると感じています。

限られた人員・資機材・財源で、このような大きな変化に対応していくことは、大変エネルギーのいることです。とかく出来ない理由を考えることにエネルギーを使いがちですが、既成概念に捉われることなく色んなことにチャレンジしてもらっています。一人で何役もの業務を抱えている職員には大変苦勞を掛けています。走りながら考える案件、熱い議論が必要な案件など、どんどん経験値を蓄えて欲しいと思います。最近では組織の中に、業務改善やスピード感を意識した姿勢が芽生えてきて、かじ取り役として心強い気持ちになっています。

火消しが仕事の消防ですが、チャレンジ精神の火は絶やすことなく、この難局を乗り切っていきたいと思います。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月29日（火）  
**担当者** 消防本部次長 小室 秀治

おはようございます。消防本部次長の小室です。

いよいよ、ボールパークの建設工事が始まりました。個人的にも非常に楽しい事業ではありますが、消防としては2023年の開業に合わせて取り組まなければならない業務が目白押しで、かなりボリュームのある業務となっています。

私たちにとって、その中でも特に重要なことは「利用者の安全をいかに確保するか」という問題です。消防の最大の目的でもあり、最も効果を期待されているものでもあります。

多くの方がボールパークを利用している時に発生するかもしれない施設内での火災や事故、地震または生物・化学災害などのテロ行為等、実際にこれらの災害が発生した場合に備えて、被害をいかに最小限に抑え効果的な活動ができるかを、ボールパークの開業前までに、それぞれの場面に応じた訓練を繰り返し実施していかなければなりません。

また、今年はコロナウイルスの感染拡大に伴い開催が延期された東京2020オリンピック・パラリンピックのマラソン・競歩につきましても札幌会場の特別警戒を要請されていることから、開催までの期間、ボールパークと同様いくつもの訓練を実施していくことになりそうです。

今後は訓練漬けの日々となりそうですが、消防体制の強化を図りながら初動体制の確保も進めていきます。

最後になりますが、昨年続き今年も女性消防吏員が採用されたことから、今後は女性消防吏員がさらに活躍できる職場環境を支援していきたいと考えています。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年9月30日（水）  
**担当者** 消防署長 本田 高広

おはようございます。消防署の本田です。

私が所属する消防署は、火災・救急出動や防火対象物の予防査察を行うなど、頼もしい68名の署員に支えられ、日々市民が安心・安全に暮らせるよう業務に取り組んでおります。

また、今年度から3年間消防署では初めて、北海道防災航空室に1名派遣をし、防災ヘリコプターに搭乗して道民の安全を空から支えているところでもあります。

さて、今年に入り新型コロナウイルス感染症が世界的に広がりを見せ、世界保健機構も世界的に大流行していると宣言され、北海道では、1月28日に第1例目の感染者が確認された以降、全道の広い地域で感染拡大が見られ、8月末現在で、1781名が感染したと発表されているところです。

消防署では、新型コロナウイルス感染症対策に力を入れ、特に災害出動時には、必ず感染防護衣を着装するなどの対応により、今現在一人も感染者が確認されていないところです。

最後になりますが、近年全国各地で地震や豪雨による自然災害が発生しており、北海道でも毎年甚大な被害を受けているところです。

災害に合わないのが一番ですが、現状ではいつ起きてもおかしくありません。

いざという時に慌てないように日頃から準備しておくことが大切であると実感しているところです。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。